

ピーマン技術情報 No.1

★管理のポイント★

- ◇生育に合わせて**かん水量**を増やしましょう。
- ◇定期的な**追肥**を心掛けましょう。
- ◇圃場を観察し、早めに**病害虫防除**を行いましょう。
- ◇**大雨・強風**に備えて、事前対策を行いましょう。

1 盛夏期の栽培管理について

(1) かん水

気温の上昇や着果量の増加、茎葉の伸長に伴い、ピーマンが要求する水分も増加していきます。少量・多回数のかん水を心がけましょう。

7月：露地栽培は株あたり 2 L

ハウス栽培は、株あたり約 3 L（曇り）～約 4 L（晴れ）が目安です。

8月：露地栽培は株あたり 3 L

ハウス栽培は、株あたり約 4 L（曇り）～約 5 L（晴れ）が目安です。

(2) 追肥

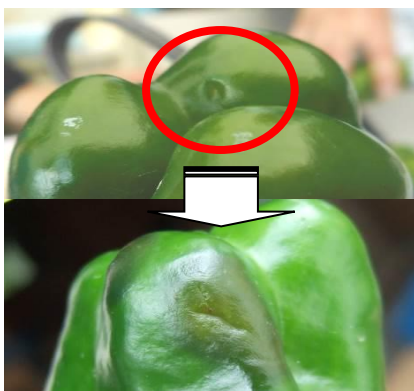
収穫開始期からは、10～15 日間隔で追肥を行います。草勢が低下すると回復に時間がかかるので、定期的に追肥をしましょう。

資材名	保証成分量 (N : P : K)	施肥量 (kg/10a)	窒素成分量 (kg/10a)
液肥 2 号	10 : 4 : 8	10～15	1～1.5
野菜追肥 S535 号	15 : 3 : 15	10	1.5

※ロング肥料を使用している場合は、基本的に追肥は不要です。土壌水分を適正に保ちましょう。

(3) 生理障害果の発生防止

高温・乾燥期は、かん水を行い、適湿を保ちましょう。



尻腐果

〈要因〉カルシウム不足。
土壌の乾燥や根張りの不良によって、
土壌中のカルシウムが吸収されず発生
するが多い。
〈対策〉かん水をしっかり行い、カル
シウムの吸収を促す。

(4) 病害虫防除

圃場をよく観察し、効率的な防除を心がけましょう。

タバコガ類（※既に発生し始めています）

幼虫が果実内に入ると、防除効果が劣るため、早期発見が重要。



斑点病（※既に発生し始めています）

潜伏期間は約2週間あるため、症状が出始めた時には、既に周囲の葉も罹病している。

〈対策〉

- ・多湿条件を避け、通気性の良い環境を作る。
- ・病害葉はほ場外へ持ち出す。
- ・栽培管理で草勢を維持する。

2 大雨・強風対策について

(1) 事前対策

- ① 収穫可能な果実はできるだけ事前に収穫します。
- ② パイプハウスは、ハウスバンド（マイカ線）が切れていないか、緩んでいないかを点検するとともに、ビニールの破損があれば補修しておきます。
- ③ 強風で支柱が抜けたり、倒伏したりする恐れがあるので、畦の両端や畦の所々で支柱を補強し、株の倒伏を防ぎます。
- ④ 支柱・ネット等への茎葉の誘引状況を点検し、しっかり固定します。

(2) 事後対策

- ① 滞水しているところでは、圃場周囲の排水溝の補修により速やかな排水を図りましょう。
- ② 病害予防のため、殺菌剤の散布を行いましょう。
- ③ 草勢回復を図るため、液肥の葉面散布を行いましょう。

☆☆☆**農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）**☆☆☆

使った農薬は使用履歴を記帳し、適正使用を徹底しましょう。

ラベル記載の「適用作物名、使用数量（希釈倍率）、使用時期、使用回数」は要チェック！

☆☆**熱中症に注意！**☆☆

適度な休憩、水分補給を心がけ、熱中症に気を付けましょう。

☆☆**いわてアグリベンチャーネットもご覧ください！**☆☆

URL : <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県内の農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など掲載中！